

## 第10期淡路地域ビジョン委員会第6回全体会（質疑応答）

日時：令和3年11月28日（日）14：00～16：00

場所：オンライン・洲本総合庁舎3階会議室

参加者：ビジョン委員26名、亀井県民局長、吉野室長、  
事務局（大橋、福榮、正司）

### （1）講演

#### 講演①

題目：「淡路島における生物多様性について」

講師：兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科  
准教授 澤田 佳宏 氏

#### 講演②

題目：「南あわじ市におけるフードドライブの取り組みについて」

講師：社会福祉法人 南あわじ市社会福祉協議会  
事務局長 山口 勇樹 氏

### （2）講演①質疑応答

#### （ビジョン委員）

セイタカアワダチソウ、ブラックバス、ナルトサワギクなど外来種を駆除すべしとの意見が大勢のようだが、長い目をみれば日本の動植物はすべて外来種ではないか。駆除の理論は正しいのか。

#### （澤田准教授）

外来種は、人間の活動によって他の場所からその場所に入ってきた生物である。すべての外来種を駆除しようとはしていない。生物多様性や、人の健康や、地域の農業などを脅かす恐れがあるものを管理するために外来種を駆除している。もともと日本にいる在来種でも管理対象にしているものがある。鹿やイノシシなどは、産業に対して悪影響があるので、ある程度管理している。同じように、暮らしや地域、産業に悪影響にある外来種のみを駆除対象にしている。

#### （ビジョン委員）

一時ヒアリの日本への上陸が話題になったが、その後はどうなったのか。影響はなくなったのか。

#### （澤田准教授）

ヒアリに関しては、今日本は侵入し始めている段階。去年ぐらいから、女王アリが見つかって新しい巣を作り出している。ただ、今見つかっているのはすべて国際港のみ。侵入の初期段階なので、巣を駆除するなど、狭い範囲での駆除を徹底

することが必要。撲滅はまだ出来ていないが、水際対策ができるギリギリの段階である。ヒアリについては、環境省などいろんなところで情報提供しているので、調べて最新の情報を得ていただければ。

**(ビジョン委員)**

ため池でブラックバスを釣る人がいるが、針やテグスを捨てて鳥が針に引っかかるなどの被害が出ている。淡路島にはため池が多いので、ブラックバス釣りの方との兼ね合いについてどうしたらいいものか。

**(澤田准教授)**

搔掘りで一旦駆除したところに誰かが放流してまた大きなブラックバスが居たりする。外来生物法で釣った魚を他の池に持って行くのは法律違反。釣具屋とかで注意喚起をしているが、マナー違反が多い。マナーの問題だけど全然解決しない問題。

**(ビジョン委員)**

裏山に竹林が生えて、毎年タケノコを切り倒したりしているのだが、少しでも楽に抑えることはできないか。

**(澤田准教授)**

孟宗竹は、全体が繋がって大きな個体になっているので、大部分を全滅させる必要がある。また、竹は10年生きるので駆除も長期戦になる。

何本か切った後、切り株に除草剤を塗布してその周りのものを全部枯らすという方法もある。薬品も使いながら駆除活動を検討してみてもいい。

**(3) 講演②質疑応答**

**(ビジョン委員)**

フードドライブとフードバンクの違いはなにか。

**(山口事務局長)**

フードドライブは、誰でもできる活動である。一方、フードバンクは、預け入れも出来るし、必要なときに払い出しも出来る機能がある。

社協は、善意銀行という善意の預託があり、人と物を循環する機能を持っている。

**(ビジョン委員)**

家庭にある賞味期限ギリギリの食品をフードドライブに寄付しても結局使われないのではないか。

**(山口事務局長)**

賞味期限が近づいたものは、直接社協に持ってきていただければ生活を困窮されている世帯にお送りすることはできる。お店や農家さんからコロナで売れ残ったお菓子や果物などを頂いたりするが、社会福祉法人のネットワークがある施設で使わせてもらったり、ご相談来られたその場でお渡ししたりしている。

**(ビジョン委員)**

淡路市や洲本市でもこういったフードロス削減に向けた取り組みを実施しているのか。

**(山口事務局長)**

洲本市社協さんからは、先日ノウハウを教えてほしいという問い合わせがあった。今後、こういった活動が全島に広がっていければと思っている。ただ、郵送の事務手続きに時間がかかったりするなどの課題もあるので、そういった課題を解決していく必要はあると思っている。

**(事務局)**

洲本市社協さんも小規模で取り組まれていて、洲本市マルナカ内膳店で、余った食材を福祉団体に寄付するフードドライブ運動を実施している。南あわじ市さんは地域全体で取り組まれているのでこの活動が広がればと思う。

**(山口事務局長)**

今回、市役所の多課に渡る連携ができたのが大きかったと思っている。社協は個人情報問題で直接市民と連絡を取ったり出来ないのも、市役所と連携したことでスムーズにできたのでよかった。

**(ビジョン委員)**

こども食堂は、南あわじではやっているのか。

**(山口事務局長)**

小規模ではやっている。市で予算を立ててもらって、「みんなの食堂」という名前で、美菜恋来屋のフードコートで弁当の配布をした。まだ、皆さんに知ってもらって、地域で広めていただけるように周知・啓発していく段階である。

**(事務局)**

今日参加している委員に、なにかメッセージとかあればお願いしたい。

**(山口事務局長)**

まずは知っていただきたい。活動もそうだけど、活動の背景についても関心もっていただければ嬉しい。そして、その活動をどんどん地域でも広げていただければ。

以上